

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスライクス 馬堀教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 10日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年 3月 5日		2026年 3月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに合った学習支援を行っている。	利用児童は、学校の宿題以外にも、事業所内で用意した学習プリントを取り組み、学習に取り組むことを習慣化し、学習内容の定着を促進できるように運営している。また、利用児童の学習におけるつまづき箇所、認知特性や知的能力等に応じた具体的支援方法は、職員間で情報共有を行っている。さらに、専門職員を中心としたインフォーマルアセスメントを行い、より効果的な学習内容の設定を行っている。	利用児童の認知特性や知的能力等に応じて、具体物を利用した学習やタブレット学習を活用するなど、プリント学習以外の方法についても検討を進める。また、学習支援の内容等については、保護者とも共有し、理解を図る。
2	利用児童が楽しみながら、社会性(話を聞く、順番を守る、待つ、決められたルールを守る)を育めるような環境設定を行っている。	集団での運動活動、公園遊び、お出かけ、クッキングなど、様々な活動の取り組みを設定し、集団生活を送る上での基礎的な社会性を楽しみながら育めるような運営を行っている。特に、ルールは、事前に、口頭だけではなく視覚的にも提示を行う、待つ順番がわかるような環境設定を行う、できた場合には花丸がもらえる等、すべての利用児童が内容と達成を理解できるような工夫を行っている。	目標の行動が定着できるまで、同じ目標を設定するなど、一定期間の練習期間を設けることを検討する。また、取り組んでいる内容については、保護者とも共有し、理解を図る。
3	一人ひとりの利用児童が安心できる環境づくりを行っている。	事業所内のスケジュールは、一定のスケジュールで視覚的に提示し、運営を行っている。スケジュール内容に変更箇所がある場合は、事前に、全員あるいは個別に告知している。また、自由活動を通じて、自己選択、自己表現できる場を設定している。個別の関りが必要な児童には、落ち着ける場所で、丁寧に利用児童の思いを聴き、より適切な対処法の指導を個別に行っている。さらに、職員会議にて、利用児童の情報や対応方法等の情報共有を行っている。	特に、不安感が強いなど、情緒が不安定な利用児童へは、適宜、保護者や関連機関等との細やかな情報交換を行いながら、より安心できる環境設定や職員の関り方等の調整を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童の個別対応が重なった時などに、利用児童がクールダウンできるスペースを確保することが難しい場合がある。	事業所は、職員室1室、共有スペース1室、個室スペース1室と、スペースが限られている。また、共有スペースを分けるパーテーションなどの物理的道具を所有していない。	小さなテントやパーテーションなど、状況に応じて、間仕切り可能な道具等の導入を検討する。
2	保護者同士の交流を促進するような保護者会、保護者の対応力向上を図るペアレントトレーニング等の勉強の機会を設けられていない。	年間計画に、利用児童の保護者を支援する機会が設定されていない。また、保護者支援の充実を図れる職員確保や時間的確保が難しい。	保護者のニーズを確認しながら、年間計画に、参観等の保護者が参加できるイベント設定から、段階的に進める。
3	事業所内での取り組み内容について、保護者への情報共有が十分でない部分がある。	利用児童の保護者への情報共有は、送迎時の口頭伝達、電話、LINE、連絡帳で行っているが、詳細について話す機会や事業所内の取り組みについての説明を行う場が設けられていない。	電話や連絡帳、LINE以外のツールの活用を検討する。また、事業所内での事前に決まっている取り組み内容については、職員間での会議を設け、モニタリング時間を十分に確保するなど、保護者への伝達時期や伝達手段等について検討しながら進める。